

# 調査・分析レポート

## ハマスの資金源と武器調達ネットワーク

中東金融・エネルギー問題専門家 中嶋 猪久生

### はじめに

ガザ地区を実効支配するスンニ派イスラム原理主義組織ハマスが、約 5000 発のロケット弾でテルアビブを始めとする主要都市を攻撃、同時に、ハマスの戦闘員がイスラエルとガザを隔てるコンクリート壁、鉄条網、検問所を突破してイスラエル南部に越境し、イスラエルへの無差別攻撃を始めた。

ハマスによる奇襲が行われたのは、ユダヤ教の三大祭りの一つ「仮庵の祭り」の直後の安息日 10 月 7 日（土）早朝。また、イスラエルがアラブ連合軍による大規模な奇襲攻撃を受けた 1973 年の第四次中東戦争（ヨム・キプール戦争）から 50 周年を迎えた翌日のことだった。これに対して、イスラエル軍はガザ地区に激しい空爆と大規模な地上作戦を展開しており、人質交換交渉のための一時的な戦闘休止はあったものの、停戦や和平への見通しは立っていない。

イスラエルによるハマス掃討作戦が始まり、ガザの惨状が連日報道されることで、イスラエルに対する抗議行動が各地で活発化している。イスラエルがハマスによるテロの報復やテロリストの掃討を理由として無関係な市民を殺傷することは許されることではない。他方、奇襲作戦で子供や幼児を含め 1,200 人以上を虐殺し、240 人もの人質をガザに拉致したことは何を物語るのか。ハマスは当初からイスラエルが反撃し、ハマスの掃討作戦を行えば、ガザの市民に数万人の犠牲者が出ることは予想したうえで、

今回のテロを計画実行したことは間違いない。

ここから見えてくるハマスの最大の狙いは、ガザの人々をあえて犠牲にして、パレスチナ問題に世界の目を向けるための道具として使うことであり、もう一つはイスラエルとサウジアラビアの関係正常化に向けた動きを阻止することではなかったか。この観点からすると、ハマスの目的は達せられたといえよう。しかし、イスラエルとハマスの戦闘は、当面拡大する方向に向かっているようにみえる。

### 本論考の目的

イスラエル政府は 2024 年 1 月、ハマスとの戦闘を踏まえ、国防予算を 550 億シェケル（約 2 兆 1 千億円）増額する国家予算の修正案を承認した。結果、修正後の予算総額は 5,820 億シェケル（約 22.3 兆円）。

一方、ハマスによる奇襲攻撃は 1 年以上前から準備され、2023 年 8 月には、レバノンでハマス、イランの「革命防衛隊（IRGC）」、イラン系のシーア派武装組織「ヒズボラ」による事前の共同作戦協議が行われた、との報道（2023/11/30 付 New York Times）がある。ハマスがこのような計画実施にあたり、誰からどのような支援を受けたのか。「戦争はお金だ」と言われるが、自動車のガソリンと同じように、巨額の資金が必要だ。そのために資金及び武器を、どこから、どのようなルートで調達したのかを分析し、多数のパレスチナ市民に犠牲が出ても自身の「正義」

を追及するハマスの正体に多少なりとも迫ることが本論考の目的である。

## 第一章 ハマスとは？

ハマスのどのような組織なのか、設立目標、過激化への動き、ガザ地区の支配等政治・軍事及び地政学的見地から概略をみておこう。

◆ **ハマスのルーツ**：イスラム抵抗運動のアラビア語の頭文字であるハマスは、イスラエルによるヨルダン川西岸とガザの軍事占領に対する抗議活動と暴動の勃発を受けて、1987年12月に創設（注1）された。創設者シェイク・アハメド・ヤシンの当初の目的は「現在イスラエル、ヨルダン川西岸、ガザからなる土地にイスラム国家を創設すること」であった。ハマスはエジプトで発祥し、元祖イスラム過激派テロ組織イスラム同胞団のガザ支部として設立された。

（注1）モサブ・ハッサン・ユーセフ著による「ハマスの息子」によれば、ヘブロンで、1986年12月、ハマスが創設されたと書いている。

◆ **ハマスの目標**：1988年のハマス憲章は「パレスチナのためにジハード（聖戦）」を説き、イスラエルとのいかなる交渉も排除するという「反ユダヤ主義」を唱えている。さらに、「イスラエルを海に追い落とす……イスラエル国家を絶滅させて、すべて土地をパレスチナ人の手に取り戻す」ことがハマスの目標だ。明らかに実現不可能な目標だが、「民族国家イスラエルの存在」こそがハマスにとって究極の問題といえる。

◆ **ハマスはテロリスト**：ハマス設立のイスラエルとの武力衝突をみるとハマスの襲撃（第一次インティファダ）、ハマスなどのテロリスト集団による自爆攻撃、イスラエルによる標的殺害（第二次インティファダ）に遡る。イスラエルの統計によれば、ハマスは2000~2004年の間で425件のテロ攻撃（バス停、レストラン、ショッピングセンター等）を行っている。米国、欧州連合、カナダ、イスラエルを含む多数の西側諸国からハマスは武装テロ組織とみなされている。ハマスは設立後、「イスラエルの破壊」

を目指すイランとの関係を強めた後、1991年にはテヘランに事務所を開設し、同年12月軍事部門である「カッサム旅団」を設立、イランから軍事訓練と共に、資金支援を受けた。イランはさらに、イスラエルの壊滅を目指すレバノンのシーア派民兵組織ヒズボラと小規模テロ組織であるパレスチナ・イスラム聖戦（PIJ）にも資金提供を行ってきた。その後、イランから武器の提供と軍事訓練を受けたハマスは自爆テロからロケット弾による戦闘に転換し、イスラエルの軍隊と戦ってきた。その結果、イスラエルの主要な人口密集地や戦略的インフラを攻撃できるパレスチナ最大のテロ組織に進化した。

◆ **オスロ合意をきっかけにイランの支援が急増**：1993年、イスラエル（ラビン首相）とPLO（ナセル・アラファト・パレスチナ解放機構議長）の間で次の3点について合意が成立（オスロ合意）。

- ①イスラエルとPLOの相互承認、
- ②テロを止める代わりに、イスラエルが1967年に占領した地域の一部（ヨルダン川西岸地区とガザ地区）でのパレスチナ人による自治の開始（二国家解決策）、
- ③その他問題の先送り

こうしてオスロ合意は成立したものの、合意に基づくイスラエルとパレスチナ自治政府（PNA）による和平プロセスはやがて挫折していく。その暗礁となった問題は、パレスチナ人による自治政府に軍事部門が認められていない、自治地域が狭い、イスラエルとパレスチナの最終的な境界、エルサレムの地位、パレスチナ難民の故郷への帰還等である。その後、アラファトはパレスチナに戻り、PNAの大統領的ポストに就き、パレスチナを支配した（2014年死去、アッバスが後継者）。

他方、イスラエルの生存権を否定し、政治的及び社会福祉部門に加えて、強力な軍事部門を維持し、オスロ合意に反対するハマスは、PNAとの対立を深めていく。

◆ **ハマスのガザ支配**：政治的には、2006年に実施されたパレスチナ立法評議会選挙（パレスチナで行われた最後の選挙）で、ハマスはライバルのPNAの支持母体ファタハに勝利し、約200万人（現在約230万人）のパレスチナ人が住むエジプト、イスラ

エル、地中海に囲まれた細長いガザ地区で第一党となった。ハマスの勝利は、パレスチナ自治政府の非効率性と腐敗に反対する投票であり、停滞している和平プロセスに対する失望の表明でもあった。

その後、ファタハが統治するラマラの自治政府は、ガザ地区への支払いを停止したり、物流の検問所ストリップの支配権をめぐるハマスとの武力衝突で、ハマスが勝利した。また、米国はハマスの進展を後退させるため、ガザ地区の民兵に武器を与えていたファタハによる武力クーデターを推し進めたが、ハマスはクーデターを未然に防ぎ、2007年に血みどろの戦闘でファタハ民兵をガザ地区から追い出した。この結果、ガザ地区はハマスの完全支配するところとなった。オスロ合意に否定的姿勢をとるイランによるハマス、ヒズボラ、PIJへの支援が急増するのはこの時期からだ。

## ◆ 10月7日の攻撃計画をイスラエル当局は無視：

10月7日の1年以上前、イスラエルの諜報機関は攻撃後にイスラエルのメディアや2023/11/30付ニューヨーク・タイムズが報じたように、コードネーム「ジェリコの壁」と名付けられ詳細なハマスの攻撃計画を入手した。この計画によると、

- ①ガザ地区を囲むイスラエルの国境フェンスに取り付けられた防犯カメラと遠隔操作の機関銃に対するドローンと組み合わせたロケット弾の集中砲火を要求し、
- ②次の段階では、オートバイやパラグライダーに乗った戦闘員が徒歩で他の戦闘員と共に、60の異なる場所にある国境の要塞を突破する。しかし、イスラエル軍や諜報機関は、この計画を「非現実的であり、ハマスの夢物語だ」として取り上げなかった。

## ◆ ハマスの資金源及び武器調達：ハマスとイスラ

エルとの戦闘に係る武器や資金の多くは主としてイランから来ていた。イランからの資金は専らカッサム旅団向けで、過去4年間で約2億ドル、武器については、イランが提供した専門知識に基づき、ハマスはミサイルやロケットを開発し、エルサレムやテルアビブへの攻撃が可能となっている。2021年以降、多額の仮想通貨による寄付も受けている。イスラエル当局の調査によれば、2021年8月から2023年6月までにPIJは最大9,300万ドル、ハマスは約4,100万ドルの資金を受け取ったことが明らかになった。

加えて、ハマスは自前の資金を持っていた。その多くは、イラク、サウジアラビア、その他アラブ諸国から集めていた。また、海外のイスラム財団への寄付金の一部もハマスにもたらされた。

当初、ハマスが集めた資金の管理・運用は主に、サウジアラビアのジェッダで行われていたが、ハマスの内外の支援国や支援組織の増加に伴い、現在では、「ハマスはテロリストではない」とするトルコのイスタンブールに中心拠点を移し、自前の「秘密投資ファンド」の運用や闇のビジネスを行っている。トルコだけでなくスーダン、UAE、アルジェリア、サウジアラビアやスペイン等での40数社の秘密投資ファンドの運用で年間推定5億ドルを稼ぎ出している。ハマスの総資金量は20~25億ドルといわれている。

◆ 今後、イスラエルがハマスを軍事的に打ち負かし、軍事的、政治的に弱体化させることに成功しても、地下に潜り、海外に依存する資金調達のネットワーク網が存在する限り、ハマスを消滅させることはできないだろう。

## ◆ ハマスの政治機構・人事

ハマスの現在の政治機構は以下の通り。